

ママ)」でした。

(ハングル検定を受けようと思ったキッカケは?)

形に残る資格がほしくて、受験を決めました。
(試験勉強を進めていく中で、大変だったこと、
心掛けたことは何ですか?)

市販の参考書を1冊買いました。内容は構文中心で、過去問や例文の記述がなかったので、実際の出題形式に沿った勉強ができなかったことが不安でした。心掛けていたのはリーディングです。勉強の中でハングルの音を文字として見たとき、これまで自分が意識していた文字と違うことを発見しました。例えば、日本語で「すみません」と聞こえた音が、文字でみると「すみません」と書かれている。音から入った私には、こういった結びつきを考えることがほとんどなかったので、この発見は新鮮でした。文字としてのハングルの学ぶことができ、とても良かったと思います。

(今後の目標は?)

来月(6月)準2級を受験します。音と文字の結びつきを理解するには、まだ時間が必要だけど、レベルアップしていくことが嬉しいので、この課題をしっかりと強化して、合格を目指したいと思います。

(韓国語を学んでいる方に何かメッセージをお願いします。)

今は韓国の音楽やドラマなど、韓国語を身近に触れる機会が多いので、そういった音や映像を活用して楽しみながら勉強したり、韓国語と日本語の成り立ちの違いを理解していく基本が大事です。また、韓国へは比較的行きやすく、勉強した成果をすぐに実践できるので、時々その環境の中に身を置くことも学習意欲を高める秘訣だと思います。

(インタビュアー：豊橋語学教育研究室 加藤雅子)

挑戦するぞ!! タイ語検定

国際コミュニケーション学部 加納 寛

名古屋校舎にタイ語が第2外国語として登場して1年チョイ。タイ語履修者も日増しに増えてゴキゲンな今日この頃です。タイ語としては、「将来役に立つ言語ナンバー・ワン」を目指して日々がんばっています。

さて、「将来役に立つ」にも、いろいろな役立ち方がある訳ですが、大学生としてはやはり、将来のお仕事で役に立つ、ということを考えるのではないのでしょうか。そこで今回お勧めするのがコチラ!! 「タイ語検定」です!!

タイ語力を測る検定には、様々な種類があります。タイでは、日本人学校の先生たちが取得を義務付けられている「ポー・ホック」試験などが一般的です。これは、タイ人の小学6年生と同程度のタイ語力があることを証明するための試験です。日本国内では、日タイ言語交流センター主催の「タイ語検定試験」と、日本タイ語検定協会の「実用タイ語検定」とがあります。愛大では、前者の4級以上、後者の3級以上を取得すると、奨励金の対象となります。がんばってね!!

では、日本で受験できる(どちらも名古屋で受験できます!!)2つの検定を見ていきましょう。

1、タイ語検定試験

例年、5月と11月に行われます。1級から5級まであり、全ての級で筆記試験とリスニング試験があります。1級と2級では、面接による口頭試問が、1次試験の1か月後くらいにあります。各級の基準は次の通りです(詳しくは<http://nichithai.com/>参照)。

5級：タイ文字の読み書きができること。基

本的な文法を理解し、表現できること。初級単語の読み、およびごく初歩的な会話（あいさつ以上）・文章の聞き取りができること。語彙数約500。

4級：文字が自由に読め、旅行等の場面で意思の疎通ができる会話が可能なこと。一般文法を理解し表現できること。基本単語の読み、および初歩的な会話・文章の聞き取りができること。語彙数2000程度。

3級：日常会話および新聞や雑誌の一般記事（特に専門用語を含まないもの）などの大意をつかむのに必要な文法・語彙を有しており、正しい発音ができること。常用単語の読み書き、および文章の聞き取り・組み立てができること。

2級：社会生活に必要なタイ語を正確な発音で使いこなすことができ、タイでの日常生活に困らないこと。仕事の場面でもタイ語を使え、新聞や雑誌の社会面を読み、訳すことができること。一般通訳、翻訳に不自由しないこと。

1級：極めて高度なタイ語運用能力を有し、新聞・雑誌の政治・経済面、一般文献なども読みこなし、法廷・会議通訳、一般翻訳などができること。

本学としては、1年間勉強した人には4級を、2年間勉強した人には3級を、さらにタイに留学をした人には2級を目標にしてもらいたいと思っています。2級があれば、タイ語を武器に就職したり仕事したりすることが可能になります。なお、愛大生は、加納に連絡してくれれば推薦者割引受験制度の適用が受けられますので、かなり「お得!!」に受験することができます。過去問もメディア・センターに完備してありますので、ドンドン利用して下さい。「タイ語演習」の授業でも、検定受験準備を心がけています。

2、実用タイ語検定試験

こちらは、上の「タイ語検定」に比べるとかなりやさしめです。5級に至っては、タイ文字なんて知らなくても、カタカナ (!!)で受験できてしまうほどのお手軽さです。2級以上は口述式の2次試験があり、3級までは年2回、準2級以上は年1回開催されています。各級の基準は次の通りです（詳しくは <http://www.thaigokentei.com/> 参照）。

5級：初歩的なタイ語をカタカナ表記とローマ字発音表記で理解することができ簡単な会話が可能なレベル

4級：初歩的なタイ語をタイ文字で理解することができ、簡単な会話が可能なレベル（学習時間は約45時間程度のレベル）

3級：日常生活を送るのに必要なタイ語を十分理解し、簡単なタイ語書籍の読解が可能なレベル（タイの小学2年生以上のレベル）

準2級：社会生活を送るのに不可欠なタイ語を理解し、企業での実務や職務上においてタイ人との意思疎通が可能なレベル（タイの小学3年生以上のレベル）。

2級：社会生活を送るのに必要なタイ語を十分理解し、新聞記事の読解、音声ニュースの聴解、簡単なタイ語翻訳やタイ語通訳が可能なレベル（タイの小学4年生以上のレベル）

1級：より高度なタイ語能力を有し、タイ語翻訳者・タイ語通訳者として通用するレベル。（タイの中学1年生以上のレベル）

いずれの試験も、日本社会におけるタイ語の重要性に比して、まだまだ級を持っている人が少ないのが現状です。愛大生には是非!! こうした資格をとって、将来に羽ばたいてもらいたいものです。トンデケー!!